

磐城時報

二十日 十月
編輯者 阿部 弘
印刷所 磐城時報印刷所
發行所 磐城時報社
電話 一四四四
代金 一月五元 三月十五元 半年三十元 一年六十元
廣告料 一行四字 日金五元
▲日刊（日曜、祭日）休刊

檢舉の手猛烈を極め 收監者四十名に達す

被疑者で溢る、平署 爭議は此儘終熄せん

警城炭礦の労働争議は去る九日坑夫組合側の百数十名が高坂坑下の警務事務所を襲撃した事件突發し、綴坑池野彌太郎（三七）外十五名はその場に於て檢舉され、平署に留置し十日夜まで全部騒擾罪の嫌疑者として平支部豫審判事の令状により平刑務所に收容されたが、十一日に至り事件は愈々擴大し平刑務所から小泉、高増兩検事は和内外三書記を随へて平署に出張し平刑務所に收容した十六名の自由により更に六十余名を檢舉し、平署演武場内に留置して

横山植田署長、水谷四倉署長、箱崎小野新町署長、渡邊浪江署長等の應援を受けそれに平署近藤、小熊の兩司法主任が加はり兩検事と共に六名の係官が片づ端から大車輪の取調を開始した、その結果巖に平刑務所に收容した十六名の外十一日夕刻まで

坑夫組合争議部長高梨二夫（三二）郡山労働組合長田中利勝（三二）外二十名を同様平刑務所に收容したので全部で三十余名といふ空前の多人数を收容した平刑務所は殆んど轉手右舞を演じてゐる。司直の取調は十二日まで進行し前日同様六名の係官は更に檢舉した三十余名について取調を續行してゐるから十二日夕刻まで收容さるゝもの多数ある見込みで、今回の警務本署襲撃事件で平署に檢舉されたものは目下收容中のものと合し實に百五十余名、平署が始つて以來嘗てない事、同署の留置場は勿論宿直部屋、小使部屋、演武場等至る處被疑者で満員の有様である。

頭株を失つた爭議團 会社の作戦効を奏す

警城炭礦労働争議は騒擾事件に舉され刑務所に收容さるゝ者、つき爭議團員の殆んど大半が檢五十名位を豫想されてゐる外坑

夫組合本部争議部長高梨二夫、郡山労働組合長田中利勝兩名等さへも收監されて仕舞つたので二旬の久しきに亘る爭議も始めて舵手を失つた観あり、このまゝ終熄するであらうと見られ最初から高壓的に、頑強にかまへた會社側の作戦が見事効を奏して爭議團を一蹴したものと見られる折柄、日本坑夫組合では面目上捨て置けずとして十三日早朝本部から法學士麻生久氏等來山し爭議を續ける由であるから今後の成行も亦相當の波瀾を豫想される筋もないではないが、大体に於て爭議は今回の大檢舉により終熄を告げるであらう

警城炭礦で 解雇を發表

爭議關係の十五名 警城炭礦では今回の労働争議につき關與した幹部を御大喪後に懲首するであらうとは専ら噂に上つてゐた事であつたが、會社では十日重役會を開き協議の結果爭議團の幹部左記十五名を解雇しその旨五大炭礦に通知した

▲高坂坑 井田豊次郎、小峯竹次郎、木村兼吉、福田幾之助、引島之助、藤咲房夫、國分糸惠 ▲小野田坑 廣川次郎、松川上吉太郎、坂口榮次郎 ▲長倉坑 永井勝次

逃げ仕度 炭礦 商人

警城炭礦の爭議は九日以來宣傳

戦や言論戦から肉弾戦と化し同驛より潜行的に次列車その他兩加入者の増加に伴ひ交換臺増設の要に迫られてゐるものが更に此れ以上設置する時は倒壊する危険はないかと小松局長も懸念し、同局舎の改築は多年から遂に現在に及んだもので同局に於ても其必要を認め過般の計上決定し今期議會の通過を待つて着工される運びに至つたが敷地は位置としては最適であるが頗る狹隘にして更、擴張するに之が買収に坪三百圓を要するたため地價に悩まされてゐるらしく平町當局としても財政難を告げてゐる爲寄附など困難らしく局では現敷地に新築する意嚮らしきも決定までは相當曲折あるものゝ觀測されてゐる。

親交會が來援

警城炭礦の爭議に關し九日朝の何により或は他會社にも飛火する場合はあつて想像され各社と松岡村警城炭礦無煙部の右傾團も頃々著しく神經をこがして親交會では板橋數馬氏外數名の組長引卒の下に約二百名の會山の如き既に整理すべきものゝ組織が高坂午後零時三十七分の下り列車に乗込まんとした處發せがめす且今回の警務争議に應官側の干渉を受け一事に多數の援したものは社規に抵觸するも乘車を阻止されたので該列車にのりて若干名を整理すること若若干名の先發隊が乗込み同驛に内定極めて最近に發表せらるる中心に川尻、南中郷等の隣接するものゝ如く傳へられてゐる。

整理計劃

近々發表の風評 警務今次の爭議はその展開の如何により或は他會社にも飛火する場合はあつて想像され各社と松岡村警城炭礦無煙部の右傾團も頃々著しく神經をこがして親交會では板橋數馬氏外數名の組長引卒の下に約二百名の會山の如き既に整理すべきものゝ組織が高坂午後零時三十七分の下り列車に乗込まんとした處發せがめす且今回の警務争議に應官側の干渉を受け一事に多數の援したものは社規に抵觸するも乘車を阻止されたので該列車にのりて若干名を整理すること若若干名の先發隊が乗込み同驛に内定極めて最近に發表せらるる中心に川尻、南中郷等の隣接するものゝ如く傳へられてゐる。

入坑者増加

十一日以来 警務今次の爭議はその展開の如何により或は他會社にも飛火する場合はあつて想像され各社と松岡村警城炭礦無煙部の右傾團も頃々著しく神經をこがして親交會では板橋數馬氏外數名の組長引卒の下に約二百名の會山の如き既に整理すべきものゝ組織が高坂午後零時三十七分の下り列車に乗込まんとした處發せがめす且今回の警務争議に應官側の干渉を受け一事に多數の援したものは社規に抵觸するも乘車を阻止されたので該列車にのりて若干名を整理すること若若干名の先發隊が乗込み同驛に内定極めて最近に發表せらるる中心に川尻、南中郷等の隣接するものゝ如く傳へられてゐる。

買収に行き悩む 平郵局の敷地

本省に計上 した豫算 二十六萬圓 警務今次の爭議はその展開の如何により或は他會社にも飛火する場合はあつて想像され各社と松岡村警城炭礦無煙部の右傾團も頃々著しく神經をこがして親交會では板橋數馬氏外數名の組長引卒の下に約二百名の會山の如き既に整理すべきものゝ組織が高坂午後零時三十七分の下り列車に乗込まんとした處發せがめす且今回の警務争議に應官側の干渉を受け一事に多數の援したものは社規に抵觸するも乘車を阻止されたので該列車にのりて若干名を整理すること若若干名の先發隊が乗込み同驛に内定極めて最近に發表せらるる中心に川尻、南中郷等の隣接するものゝ如く傳へられてゐる。

十一名檢舉

警城炭礦争議について爭議團員百五十余名が檢舉され内約四十名は平刑務所に收容されて事別項の通りであるが十二日午前十一時警務員山家軍作（三六）外十名も暴行の廉を以て自動車で平署に檢舉され目下取調を受けてゐる。

婦人農事講習

石城郡農會では来る廿日から三日間神谷小學校、廿四日から二日間内郷小學校の二ヶ所に於て婦人農事講習會を開催するが講師は縣立警城高等女學校教諭、稻田農試分場長、野村縣農林技師で講習課程は農業、家事、作法、養蠶、園藝、養鶏等である。

平模擬市會 市會議員得票

井上貞次郎氏 二一八〇票

二二二票	吉田 寅之輔氏
一七二票	綠川 喜三郎氏
一四〇票	三森 虎雄氏
一三六票	馬目 雅治氏
一〇五票	白井 一郎氏
一〇二票	齋藤 英三郎氏
一〇一票	高橋 英三郎氏
一〇〇票	酒井 龍松氏
九九票	柴田 正二氏
九十八票	關内 昌雄氏
九十八票	鈴木 東次郎氏
八十五票	山目 武之助氏
八十一票	馬目 武之助氏
六十一票	諸橋 守次氏
六十票	萩原 義雄氏
六十票	山崎 徳次郎氏
四十三票	大森 勇氏
四十二票	櫻井 清氏
三六票	渡邊 源吉氏
三三票	阿部 政右門氏
三二票	猪野 庄三氏
三二票	草野 順平氏
三二票	真山 恒氏
三二票	横山 正見氏
三二票	藤沼 龍輔氏
三二票	杉本 邦三郎氏
三二票	鈴木 武雄氏
三二票	鈴木 清三氏
三二票	山崎 清三氏
三二票	高倉 精一氏
三二票	佐藤 武之氏
三二票	山田 盤磨氏
三二票	千原 彦治氏
三二票	諸橋 元三郎氏
三二票	諸橋 俊平氏
三二票	保坂 龜八郎氏
三二票	市原 守馬氏
三二票	關内 喜久次郎氏
三二票	須田 基太郎氏
三二票	須田 正次氏
三二票	中野 康平氏
三二票	山野 大五郎氏
三二票	長瀬 延太郎氏
三二票	吉田 喜代治氏
三二票	多田 笑次郎氏
三二票	南部 津武八氏

